

2050年

ゼロカーボンシティ 実現に向けて

地球温暖化が問題となっている今、ニュースなどで耳にすることがある「ゼロカーボンシティ」や「カーボンニュートラル」。聞いたことはあっても、それがどういった意味なのかを知らない人もいないでしょうか。実は私たちの生活に深く関係し、未来のみよし・地球にとっても重要な取り組みなのです。

今月の特集では、ゼロカーボンシティ、カーボンニュートラルといった言葉の意味や、ゼロカーボンシティ実現に向けて私たちにできること、市の取り組みなどを紹介します。みんなでみよしの未来・地球の未来について考え、できることから取り組んでいきましょう。

環境課 ゼロカーボン推進室 ☎32-8018 FAX76-5103



ゼロカーボンシティって何？



地球温暖化の主な原因である温室効果ガスのうち、その大半を占める二酸化炭素(CO₂)の排出量を、2050年に実質ゼロにすることを目指す自治体のことをいいます。市は2019年12月に「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。



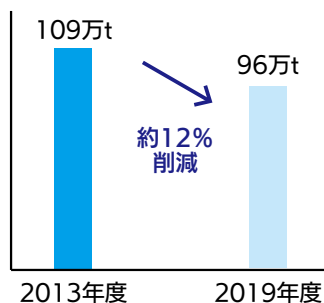
出典：環境省ホームページ (https://ondanka.taisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/)

カーボンニュートラルって何？

CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量をできるだけ削減した上で、削減しきれなかった分を植林や森林管理などによりCO₂を吸収することで差し引き合計を実質的にゼロにすることです。市全体で排出されるCO₂排出量は年間約96万t*であり、そのうち家庭からの排出量は年間約6.3万t*です。日本の基準年である2013年度の排出量と比較すると市全体で約12%を削減。2050年までに家庭でカーボンニュートラルを実現するためには、市民一人当たり約1,027kgの削減が必要です。

※2019年度現在・環境省自治体排出量カルテより

市全体で排出されるCO₂排出量



どうして2050年なの？



- ①2015年12月にフランスで行われた気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で、2020年以降の地球温暖化対策に関する国際的な枠組み「パリ協定」が採択されました。「パリ協定」では、人間の経済活動から排出される温室効果ガスによって引き起こされる地球全体の平均気温上昇を、経済活動が活性化し人為的な地球温暖化が起きる産業革命前と比べて「2℃未満(できれば1.5℃)に抑える」という目標について、全196カ国・地域により合意されました。
- ②2018年10月の国連の政府間組織である気候変動に関する政府間パネル(IPCC)で、世界の平均気温上昇を1.5℃以内に抑えるためには、2030年までに2010年比で温室効果ガスを45%削減し、2050年までには実質ゼロにする必要があることが示されました。
- ③2020年10月の国会において、当時の菅内閣総理大臣が「日本は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル実現を目指す」ことを宣言しました。

地球温暖化のメカニズム

- ①太陽の日射により地上が温まる
- ②地上から逃げ出そうとする熱を温室効果ガスが吸収して温かさを保つ→「温室効果」といいます
- ③人間の活動などにより、温室効果ガスの濃度が上がる
- ④温室効果が強まり、気温が上昇する

地球温暖化が進むと…？

- 海面の上昇
- 異常気象の頻発化
- 砂漠化の拡大
- 水資源不足や農業生産量減少など



私たちの生活に大きな影響があります

みんなでゼロカーボンシティを考えよう！

2050年のゼロカーボンシティ実現に向けた意見交換のため、ワークショップを開催します。



ホームページ

●内 容 第1回「ゼロカーボンを知ろう」

地球温暖化を取り巻く現状や環境問題について学び、国や自治体が行っている取り組みを知る

第2回「ゼロカーボンを実現するための取り組みを考えよう」

グループディスカッションでゼロカーボンを達成するための取り組みを考え、市に期待する施策や事業について話し合う

●対 象 市内在住・在勤・在学中で、2回とも出席できる人

●開催日時 第1回 8月28日(日)14:00～16:00

第2回 9月11日(日)14:00～16:00

●開催場所 市役所3階研修室

●申し込み 8月15日(月)までに申込用紙(環境課で配布、ホームページからダウンロード可)を郵送、ファクス、メール(✉kankyo@city.aichi-miyoshi.lg.jp)または環境課へ直接



▲過去に開催されたワークショップの一例

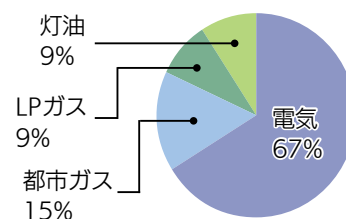


私たちにできることは？

私たちが1年間に排出するCO₂排出量は、1世帯当たり約2,640kgです。
(環境省 2020年度家庭部門のCO₂排出実態統計調査より)

少しでもCO₂排出量を削減するために、私たちにできることは何があるでしょうか。

世帯当たり年間エネルギー種別CO₂排出量・構成比▶



エアコンの使い方

【条件】9時間/日稼働、電気代(25.51円/kWh)で計算

- エアコンの設定温度を1℃上げる
→ 約**13.2kg**のCO₂排出量削減(夏季期間(120日)で電気代約830円の節約)
- エアコンを使用する前にフィルターの掃除をする
→ 約**3.1kg**のCO₂排出量削減(夏季期間(120日)で電気代約200円の節約)
- 10年前のエアコン(8畳用)を省エネエアコン(8畳用)に買い替える
→ 約**12.2kg**のCO₂排出量削減(夏季期間(120日)で電気代約770円の節約)



太陽光発電設備と蓄電池の設置

【条件】1世帯当たりの年間電気消費量4,239kWh*かつ1世帯当たりの太陽光発電システムの年間発電量5,300kWh*で、電気代(25.51円/kWh)で計算
※環境省統計調査より

- 太陽光発電設備と蓄電池を設置する
→ 1世帯の年間電気消費量全てを賄うことができ、約**1,700kg**のCO₂排出量削減(電気代約100,000円の節約)

低公害車の活用

【条件】普通自家用車(燃費9km/L)から低公害車(燃費21km/L)へ切り替え、走行距離(10km/日)、ガソリン代(160円/L)で計算

- 低公害車に買い替える
→ 年間約**354kg**のCO₂排出量削減(ガソリン代約24,000円の節約)



さんさんバスなどの公共交通機関の利用

【条件】走行距離(10km/回)、自家用車(燃費20km/L)で計算

- 移動をする際に、さんさんバスなどの公共交通機関を利用する
→ 1回当たり約**1.2kg**のCO₂排出量削減



市の取り組み

エネルギーを地産地消することの大切さを感じてもらい地球温暖化防止を促進するため、市では以下の取り組みを行い、また補助制度を設けています。



ホームページ

公共施設へ太陽光発電システムを設置

市役所庁舎、みよし市民病院、サンライズ、おかよし交流センター、カリヨンハウスへ太陽光発電システムを設置し、エネルギーの自給自足に努めることでゼロカーボンシティの実現に向けて取り組んでいます。

▼太陽光発電システム
(おかよし交流センター)



住宅用太陽光発電システムへの補助制度

個人が住宅用で使用することを目的として新規に購入・設置した太陽光発電システムの経費に対して補助します。

【補助金額】 太陽電池モジュールの出力値合計(kW) × 40,000円(上限20万円)

※太陽電池モジュールの公称最大出力が10kW未満のものが対象です。

【申請】 システムの設置完了日から180日以内に、必要書類を添えて環境課へ申請してください。



家庭用蓄電システムへの補助制度

個人が住宅用で使用することを目的として新規に購入・設置した家庭用蓄電システムの経費に対して補助します。

【補助金額】 補助対象経費の10%(上限15万円)

【申請】 システムの設置完了日から180日以内に、必要書類を添えて環境課へ申請してください。



低公害車への補助制度

個人または事業者が購入・リースする低公害車に対して補助します(新車に限る)。

【補助金額】 車両本体価格の5%で、上限は次のとおり

- 燃料電池自動車…上限35万円
- プラグインハイブリッド自動車および電気自動車…上限15万円
- 超小型電気自動車…上限5万円

【申請】 車両の新規登録後に、必要な書類を添えて環境課へ申請してください。

2022年7月1日から、低公害車のリース契約も補助対象となりました

※ただし、2022年4月1日以降の新規登録車両に限ります。



◆家庭用燃料電池システム(補助対象経費の10%で、上限15万円)

◆家庭用エネルギー管理システム(HEMS) (補助対象経費の10%で、上限1万円)

◆ネット・ゼロ・エネルギーハウス(ZEH) (定額40万円)

など、さまざまな補助制度があります。詳しくはホームページをご覧ください。

2050年にゼロカーボンシティを実現するために、市民の皆さんと一緒にカーボンニュートラルなまちづくりを目指します。

一人一人ができる活動を通して「環境に優しいまち みよし」を築いていきましょう。